



「神戈陵」から校庭の向こうに校舎全景 木造校舎はなくなった。

## 第44号

題字 西 春彦 著

○発行所 川辺高等学校東京同窓会

○発行日 令和2年10月31日

○編集発行人 森山昭利

○印刷所 株式会社 盈進社 ☎03(3262)3471

# 巻 頭 言

### はじめに

今年の川辺高校東京同窓会の総会・懇親会が5月23日(土)に予定されていたが、新型コロナウイルスの感染・流行で止む無く中止となりました。総会・懇親会に参加予定であった会員の皆様には残念に思われたことでしょう。

東京同窓会は昭和52年11月10日に設立されました。今年で第44回の総会・懇親会開催の予定でありましたが、中止の事態は初めての事でした。当同窓会の年間活動の柱の一つに、会報誌「神戈陵」の発行があります。会報誌「神戈陵」の発行は、会員相互の情報交換を密にし、さらに親睦を図り、同窓会・母校の発展に寄与することを目的として取り組んでいきます。特に今年度の会報誌「神戈陵第44号」の発行は、このコロナ禍の中で、更に意義深い取り組みであると思っております。例年この紙面には、その年度の総会・懇親会の模様が掲載されますが、今年は「巻頭言」として掲載することとしました。

### 会報誌「神戈陵」の歴史

会報誌「神戈陵」の創刊号は、昭和53年5月26日に発行されています。内容は川辺高校東京同窓会設立総会・懇親会の模様が掲載されています。見出しには、「川辺高校第一回東京同窓会・神戈陵健児380人集う・感動と熱気の2時間・ヤングも大集合」と大きく掲載され、躍動する熱気を感じます。ちなみに、創刊号の紙面の様式は、タブロイド版で4ページからなっていました。

初代会長に川野重任氏(昭和4年卒・東大名誉教授)の他33名の役員体制で、東京同窓会は発足しました。会報誌「神戈陵」の題字は、名誉会長の西 春彦氏(明治44年卒・元駐英大使、元外務事務次官)に揮毫を頂き、今に至っています。

創刊号「陵友だより」には、大正4年卒の大先輩から昭和45年卒までの幅広い24名の多くの会員の方が、150から200字程度で、母校や同窓生の想いなどを投稿されているのは印象深く思いました。今後「一言陵友だより」的に多くの会員に、日頃のちょっとした思い・教師・友達・母校の想いを寄せてもらえば、「神戈陵」もますます充実して会員間の交流・絆作りが進むかと思えます。

ちなみに、「神戈陵」の形態が創刊号から第3号までが、タブロイド版であり、今のA4サイズの冊子形態は第34号以降からです。

### 母校の歴史

明治33年4月26日旧制県立第4中学校として設立され、昭和23年までの45回の卒業生総数は3,696名のほり、大正4年4月には高等女学校が設立され、計32回の高女卒業生は1,657名輩出されています。

昭和23年4月より新制高校に代わり、昭和・平成・令和と時代が変わり、全卒業生数は2万人を超えています。今年が明治33年の創立から120周年で、長い歴史と伝統のある母校であります。

母校の校風は「神戈陵精神(魂)」に表現され、教育方針は校訓にある「自律・端正・積極・公德」の具現化と「知・徳・体」の調和のとれた、創造性・実践力のある人材育成を目指しています。

東京同窓会はこれら母校の歴史と伝統を引き継ぎ、登録会員数1,000名弱の皆様温かいご協力・ご支援で運営されています。しかし、会員数は年々減少傾向にあります。平成・令和の卒業生のご参加を、呼びかけているところであります。

「神戈陵」の充実と読みやすい紙面づくりを目指して

「神戈陵」の紙面は、近隣高校や愛郷会の会報誌と比較して、活字が多い・固い内容が多いなどの意見を聞いています。最近は写真・イラストなどを多く取り入れたりもしています。さらに読みやすい・愛される・投稿したくなる紙面づくりに、皆様のご意見を頂き、努力してまいります。皆様のご支援を、宜しくお願ひします。

「神戈陵」編集担当・副会長  
昭和41年卒 峯 苦 稔(三)

(1) 昭和53年5月26日

神 戈 陵

創 刊 号

**川辺高校 第一回東京同窓会**

**神戈陵健児 380人集う**

**感動と熱気の2時間**

ヤングも大集合

「神戈陵」の発行は、会員相互の情報交換を密にし、さらに親睦を図り、同窓会・母校の発展に寄与することを目的として取り組んでいきます。特に今年度の会報誌「神戈陵第44号」の発行は、このコロナ禍の中で、更に意義深い取り組みであると思っております。例年この紙面には、その年度の総会・懇親会の模様が掲載されますが、今年は「巻頭言」として掲載することとしました。

「神戈陵」の紙面は、近隣高校や愛郷会の会報誌と比較して、活字が多い・固い内容が多いなどの意見を聞いています。最近は写真・イラストなどを多く取り入れたりもしています。さらに読みやすい・愛される・投稿したくなる紙面づくりに、皆様のご意見を頂き、努力してまいります。皆様のご支援を、宜しくお願ひします。





## 川辺高等学校東京同窓会の第43期 (令和元年度)を振り返って

東京同窓会会長  
昭和四十一年卒 森山 昭利

令和元年6月8日の東京同窓会第43回総会において、私は会長という大役を拝命しました。馬齢を重ねていただけの私にとつては、まさに「晴天の霹靂」でしたが、経験不足の部分は役員・幹事・評議員の皆様にお引き受けしただけです。

7月半ばには、総会の反省・検証を兼ねた役員会も無事終えて、8月から峯苦副会長の主導で、恒例の会報誌「神戈陵第43号」の編集作業に着手しました。会員の皆様のご協力もあって、原稿や広告の募集も順調に進み、9月の編集会議、10月の校正作業も問題なく、10月26日の評議員会で発送作業を行いました。令和2年には母校の創立120周年記念事業が行われる予定だったので、母校からの募金の依頼状と払込用紙も

のは寂しく思いました。

ともかくにも、こうして令和元年は何とか平穏無事に終えることができましたが、すでに皆さまご承知の通り、令和2年は予想もしなかった激動の年になりました。

1月半ばに新年会を兼ねた役員会を開催し、総会・懇親会の準備作業を3月初めに開催する評議員会で行うことなど確認しました。しかし、中国での新型ウイルスによる感染症急拡大のニュースが入り始め、事態が極めて深刻なことが明らかとなり、3月に開催予定だった「関東さつま川辺会」も中止すると連絡が寄せられました。

このため、2月に臨時役員会を招集して5月の東京同窓会の総会・懇親会と3月の評議員会を中止することを決めました。この決定を受けて、評議員へのメールおよびハガキでの中止連絡、評議員会会場のキャンセル、印刷済みの総会・懇親会の出欠回答用のハガキの交換、新たに中止

連絡ハガキとしての再印刷、発送手配などを大急ぎですませました。

3月初旬に総会・懇親会の会場として予約してあった新宿ワシントンホテルを訪問し、総会・懇親会の中止によるキャンセルをお願いしたところ、キャンセル料無しで予約を取り消してもらえました。

4月には母校で約60名の新入生を迎えての入学式が開催されましたが、感染予防のために生徒と保護者のみ参加する異例の形式となり、下旬からは県内の学校のすべてが休校となるなど、新型コロナウイルスの影響は拡大する一方でした。さらに、薩南工業高等学校同窓会関東支部からも、6月に予定していた総会を新型コロナウイルス感染予防の観点と使っていた会場(上野隴外荘)が閉鎖されたために中止すると連絡がありました。

5月に入って、母校から11月開催予定であった「創立120周年記念式典」を来年秋に延期すると連絡がありました。オリンピックの延期

同封したのですが、東京同窓会の年会費払込用紙も送るようになっていたため、一部では混乱したこともあったようで申し訳ありませんでした。また、関東各地で台風などで大きな被害が発生する中で、会報誌を送付したことに苦言もいただきました。今後はこうした状況も考えて、何らかの対応が必要だと考えさせられました。

12月には母校の修学旅行生60名ほどが上京したのに合わせて、会場の日本青年館ホテル(神宮の東京オリピック会場を見下ろす場所)で、東京同窓会の役員4名が15名ずつくらいに分けたグループに対して2回ずつ「神戈陵塾」と題して、それぞれの得意分野の講義を行いました。前年は90名程度だったのですが、1学年が3分の2くらいに減っていた



に加えて秋の鹿児島国体も延期決定など、新型コロナウイルスの影響はとどまるどころを知らない状況となりました。

さて、総会が中止になったことで、議決が必要な案件をどうするかが問題となりましたが、当会の会則にはこのような事態に対する条項が定められていません。さいわい、役員改選などの重要議題は時期ではないため問題なかったのですが、会計監査については結果を承認いただく場がなくなってしまったのです。そこで、窮余の一策として、第43期の会計監査は通常通り実施し、役員会を開いてその場で会計監査報告をしてもらい、役員会として了承したうえで次期総会に議題として上程することにしました。ただ、コロナ禍の外出自粛要請のさなかにあり、いつものように関係者が一堂に会しての会計監査はできず、関連書類をメールや郵便でやり取りして何とか5月末までに実施することができました。

5月下旬に新宿ワシントンホテル

に電話して、令和3年の総会・懇親会の仮予約について聞いたところ、コロナ禍のため数か月にわたって会場の利用が無く、今後の事業形態をどうするか内部で検討中であり、場合によっては事業の縮小・撤退もありうるので、今の段階では仮予約といえども受けられないとの回答がありました。これは次回の総会会場探しを始める必要があるというだけでなく、他の会場も同じような状況にあるとすれば、会場選が想像以上に難航する可能性が高いと考えざるを得ません。役員会でもこの件を報告したうえで、早めに会場探しに着手することとしました。とりあえず令和2年の総会中止の処理作業は一段落し、秋の会報誌「神戈陵第44号」の発行に向けて準備を始めました。

さて、第43期の回想はここで終わりますが、改めて一連のコロナ騒ぎを振り返ってみると、さしずめギリシャ神話の「パンドラの箱」が空け

られた後のようで、世の中にありとあらゆる厄災が拡散した結果、これまでの平和で安穏な生活を一変するよう強いられたように思います。それは、これまで当たり前のことだった活動（外出、会合、会食、飲み会、友人との会話、旅行）が自由にできなくなり、各種サービス（買い物、宅配、娯楽）も制限されるうえ、今後はこうした状況を受け入れて生活することを求められ、以前のような環境が戻ってくる保証もないという状況だからです。しかし、人類の歴史は同じような病気との戦いと共存の歴史だったともいえ、いずれワクチンなどの開発によって、少しはましな状況がもたらされるはずであり、「パンドラの箱」の寓話のように最後に残った「希望」だけは大事に持ち続けていきたいと思えます。



正門ロータリーにある校訓の石碑



額に納められた 篆書体の校訓





## 母校へ更なる応援のお願い

同窓会会長 森田 剛  
昭和四十三年卒

令和2年は、新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、いつ終息するのか見通しの立たない中、東京オリンピックをはじめ幾多のビックイベントが延期あるいは中止に追い込まれ、未曾有の事態が起こっております。そのような社会情勢を踏まえ、川辺高校同窓会も令和2年11月21日に予定しておりました創立120周年記念式典を、「式典時における新型コロナウイルス感染防止」と「在校生の3月～5月初旬の休校時に失われた授業時間の確保」という2つの観点から、苦渋の決断ではありましたが、記念式典を1年延期し、令和3年11月20日に実施することいたしました。この新型コロナウイルス禍が早く終息し、来年の創立120周年記念式典が盛大に挙行できることを祈るばかりです。

創立120周年を迎えるにあたり、生徒たちのより良い学習環境を整えることを主たる事業として実現するために、募金の目標額を2000万円と決めて、1次締め切りを令和2年3月31日として、募金をお願いしたところでありましたが、現在目標額に遠く及ばず、現状のままでは事業推進に影響を及ぼすことが懸念されております。そ

のため、募金へのご協力をいただけていない全国の同窓生の皆様へ再度募金のお願いをする必要があると考えております。さらに、川辺高校同窓会ホームページ上でもお知らせする予定ですが、既に募金をいただいた方々からも再度近隣の同窓生にお声掛けいただき、多くの方からのご厚志がいただけるようご協力をお願いいたします。

近年、各地区の同窓会を訪問させていただく中で、「若い方々が参加してくれなくなつた」とか「地区同窓会を案内しようにも若い方々の連絡先がわからない」といった声をよく耳にしております。考えてみますと「同窓生名簿」は創立100周年時に作成して以来発行しておらず、若い方々（特に30代から40代の方々）の動向が本部同窓会として全く把握できていない状況にあります。学校側とも相談の上、直近の20年間の卒業生の保護者住所等を提供していただいた上で、創立120周年を機に新たな「同窓会名簿」を発行することといたしました。つきましては、出版社より同窓会名でハガキが届くことと思っております。調査へのご協力をよろしくお願いいたします。



## 急速な時代の変容

川辺高等学校校長 大山尚人

今年、川辺高校創立百二十周年記念式典、鹿児島国体、東京オリンピックと大きな行事が開催されるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期になりました。地元でも知覧ねぶた祭、川辺祇園祭など恒例の催事も中止になり、川辺高校生が地域貢献の活動を行う場もなくなりました。

天候は、線状降水帯による豪雨を伴った長い梅雨と梅雨明け後の連日の猛暑日と熱帯夜となる日が全国で起こっています。体調管理には十分に気をつけてください。

さて、学校の様子ですが、行事はコロナ禍により中止や延期が相次いでおり、現在は体育祭の実施に向けて検討を重ね、普段からコロナウイルス感染と熱中症の両方の防止対策を並行して行っています。教室の冷房による温度管理と換気の問題、マスクの脱着の問題、検温や水分補給の問題、など両方を防止するために苦慮することがいろいろあります。「新しい生活様式」の定着を目指し、

頑張っています。

一方、十二月の修学旅行は例年通りの実施が非常に難しい状況です。昨年も生徒達と東京同窓会の皆様四名との懇談会が実施できました。先輩方の貴重なお話で生徒達に大きな刺激を与えていただき、本当に有り難うございました。日本青年会館ホテルでの実施で、完成したばかりの国立競技場を、外から観覧することができました。生徒達は翌年の東京オリンピックに思いを巡らしていましたが、誰も今の状況は予想できませんでした。

来年こそは、創立百二十周年記念式典が必ず開催できると信じています。来校をお待ちしています。

最後になりましたが、平素から母校の教育活動に深い御理解と多大な御支援を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。併せて東京同窓会の、今後益々の御発展を祈念いたします。

特別寄稿

故郷の名所旧跡「日本の最強の城」(NHK総合)で放映  
知覧城跡 島津氏一族佐多氏の居城  
南九州市教育委員会 上田 耕



本丸跡の顕彰碑と土塁

知覧麓の武家屋敷から南へ約1km、シラス台地のガケを最大限に利用して築かれた中世の山城知覧城跡がある。規模・まとまり・遺構の残りの良さに加え、江戸時代には、薩摩藩制下の外城の一つで、麓の武家屋敷の前身にもなっている。平成5年(1993)5月、城域約41畝中の約24畝が鹿児島県では戦後始めての山城跡の国指定史跡となった。  
知覧城の歴史  
〜宮村移転から旧領知覧へ復帰〜  
築城年代は不明だが、文献によれば文和2年(正平8年、1353)



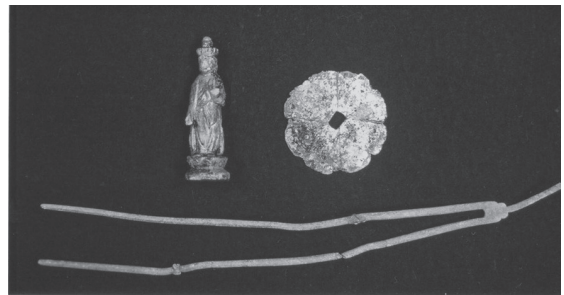
知覧城跡上空写真(東側から撮影)

島津氏四代忠宗の三男忠光(佐多氏初代)が知覧を与えられている。知覧城は、15世紀前半には上木場城の名で登場するのが最初である。この頃、伊集院頼久の叔父今給黎久俊が所有していたが、島津久豊の下、佐多氏が奪還し以後、居城となった。天正19年(1591)佐多氏は11代久慶の時に豊臣秀吉による禁令に触れ、川辺宮に左遷された。文禄4年(1595)、知覧は種子島氏の所領となり、慶長15年(1610)には、



東ノ柵と今城間の大空堀

再び佐多氏が知覧の地頭として本領に復帰したとされるが、この時は知覧城ではなく、城から約北1km離れた麓川沿いに居館があった。その後麓と呼ばれる武家集落を築き、江戸時代を通じて知覧は佐多氏(知覧島津氏)が統治する私領地であった。  
縄張りの特徴  
〜シラス台地の深い空堀〜  
火山灰台地(通称シラス台地)の縁辺の浸食谷によって形成された地形に手を加えて構築した城である。「城内」と地名の残っている主郭部分で、外周部の曲輪群が取囲んでいる。高低差30mあまりの深い空堀で隔てられ、それぞれの曲輪は、独



蔵之城跡からの出土遺物

立性を備え、領主のほかに家臣とその一族などが居住、茅葺きで平屋の建物がひしめきあって、一見、山上の武家屋敷を呈していた感がある。航空写真でその面影を見ることができ。  
シラスの崖は雨にもろいが、いったん崩落すると垂直に切り立ち、敵を寄せ付けない強固で急峻な崖となる。南九州の深い空堀は防御と共に普段は通路や排水路も兼ねている。  
出土遺物が語るもの  
知覧城跡の中心曲輪の一つ、蔵之城跡では、4間×4間(3面に3間の底がついている)の堀立柱建物跡



知覧城跡の縄張図(奈良大学千田嘉博氏作図)

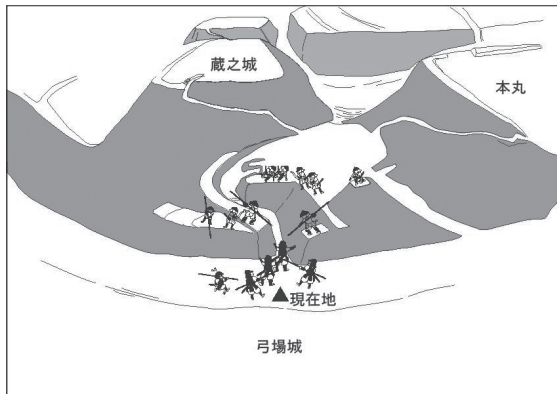
を中心には柱穴群や土坑、虎口(入口)などの遺構が発見された。それに伴って、15・16世紀代の中国産の青磁・白磁・染付碗・皿をはじめタイ産陶磁器類や古銭、鉄くぎ、金銅製の十一面観音菩薩像、碁石、硯、鉄砲玉なども出土している。このような多彩な出土品の数々は、不明な部分の多い南九州の拠点城郭の使われ方を探る手がかりにもなり、併せて海上を通じたダイナミックな交易の様子までも知ることができている。

続日本百名城・日本遺産・ミュージアム知覧へ

知覧城内には、知覧城の縄張図などの資料入れポストも設置されている。また城から約1キロ西側の台地、特攻平和会館の隣には、ミュージアム知覧(入館料300円)があり、当館に知覧をはじめとした南薩摩の豊かな歴史や民俗の数々を収蔵し、一部を展示公開している。中には知覧城跡の模型や出土遺物、江戸時代の麓の武家屋敷に伝わる調度品や武器などのもあり、ビジターセンター的役割を果たしている。



知覧城は、近年小学館の日本名城100選、公益財団法人日本城郭協会主催の続日本100名城となり知覧城跡スタンプはここで押せる。令和元年には「薩摩の武士が生きた町」武家屋敷群「麓」を歩く」と題して日本遺産に認定された。これを機会に知覧麓などの武家屋敷群と山城を訪れる方々も増えたが、令和2年コロナ禍で観光客は激減している。知覧麓と知覧城以外に南九州市内には、川辺町の平山の麓と平山城(川辺城)や勝目麓と勝目城、頼娃町には頼娃麓と頼娃城がある。これら「麓と城」は礎となつて今日の町の発展へとつながってきた。令和2年7月21日にはNHK総合テレビの人氣番組「日本最強の城」で二条城をはじめ、仙台城・福岡城・宇和島城・小田原城と名だたる歴史に登場する大名たちの城郭に名を連ねて無名の知覧城跡が紹介された。落語家



本丸・蔵之城への玄関口「枡形」のイメージ図

の春風亭昇太師匠も一度は行ってみたかった城の一つであこがれの城と言わしめた。実は日本列島の中世に築かれた城郭群の中でもシラス地形に築いた特徴的なグループの城郭群なのである。放送後、ネットや電話等々でも反響があり、地元の方々から「地元について知らなかった」「名前は知ってたが、実際には行ったこととはなかった」「県外者からは「一度は行ってみたい山城」とか、「堀が深くて緊迫感が漂っていて怖い」等々の意見をいただいている。知覧城跡は国指定から今年で27年目にあたる。コロナ禍が落ち着いたら、再び観光客も増え、市民への興味関心も高まってくることを期待している。

因みに川辺高校グラウンドの前の丘陵、神戈陵(陣ヶ丘)も田部田城の一郭で中世山城である。身近な学び舎も実は戦国時代の影響を残している場所だったのである。



南九州市キャラクター お茶むらい

陵友だより

人生を豊かにする旅に出よう

昭和二五年卒 篠田徹男

コロナ禍が一向に収まりそうにな  
い。お蔭で旅も「自粛」の毎日だ。  
第二の人生をふるさととは逆の北ぐ  
にエゾ地に求めたのも、カッコよく  
言えば旅心だった。

旅の魅力って何だろう。一言でい  
えば「日常からの逃避」である。そ  
こにはふだん見慣れた日常と全く違  
う世界があるから、それを求めて人  
は旅に出るのではなからうか。その  
刺激が人生を豊かにし、日々の活力  
を生む。芭蕉が旅に出たからこそ  
「奥の細道」も後世に遺る作品に  
なったと言えよう。

先日、たまたま乗ったタクシイの  
運転ちゃんは途轍もない旅の達人だっ  
た。第二の人生にタクシイドライ  
バーを選んで正解。それなりの稼ぎ  
があり、その上、気ままに休みが取  
れて旅が出来る。こんなにありがた  
い仕事はないと仰る。それもお仕着

せツアーなんてものではなく、気の  
向くままに放浪するバックパッカー  
なのだ。結構なお歳とお見受けした  
が、ひとり旅に必須の英語も最近勉  
強を始めたそうだから筋金入りであ  
る。

第二の人生も四半世紀。道内はも  
とより海外の旅も体験した。初めて  
海外旅行を計画した時、一度行つた  
ら病みつきになるよ、と言った人が  
いた。何気なく聴いたその言葉が、  
旅を重ねるうちに実感できるよう  
になった。

世界には数多くの美しい風景があ  
る。言葉も習慣もまるで違う人々が  
たくさんいる。食べものだってその  
土地でなければ味わえないものがい  
くらでもある。テレビに旅番組は数  
多くあるけれど映像は生の体験には  
到底及ばない。

しかし楽しいからと言って、日常  
をほったらかしにして年中旅に出て  
いるわけには行かない。現役時代は  
時間が取れないし経済的な余裕もな  
い。

印象に残った海外を一つだけ挙げ  
るなら中央アジアか。テレビなど  
も滅多に取り挙げない国が五つもあ  
る。そのうちのウズベキスタンとト

ルクメニスタンの二か国だけだった  
が、ふだん接することのないイスラ  
ム文化にじかに触れて刺激された。  
澄んだ空にターコイズブルーの丸屋  
根が映える風景もふだん目にするこ  
とはまずないだけに感動する。

人生百年の時代になった。アシコ  
シが健在なことが絶対条件であるの  
は当然として、好奇心を失つたら旅  
は意味がない。

第二の人生こそチャンスだ。コロ  
ナ騒ぎで今は自粛を余儀なくされて  
いるけれど、世の中が落ち着いたら  
また旅に出よう。



サマルカンド [ウズベキスタン] の  
アミール・ティムール廟

高校の校庭のあの大樹  
は今も堂々として深く  
根を張り同じ姿でい  
るでしょうか？

昭和四〇年卒 檜山清子

20歳で上京して半世紀、いつでも  
戻っていた故郷に気軽に戻れなかつ  
たこの夏は、殊更にあのどこまでも  
高く青い空と、秋の稲穂の向こうに  
広がる里山の緑と、さらにその向こ  
うに幾重にも連なる群青色の山並み  
が思い出されます。その景色に包ま  
れて、自転車を通つた砂埃の砂利道、  
いつでもその折々の草花が色あせず  
思い出されます。

いつの間にか東京での生活が半世  
紀を超えました。川辺で過ごした18  
年に比べたら、あつという間のよう  
でもあり、長い時間を過ごしてきた  
ようでもあり…。

一目の前の課題を必死でこなしなが  
ら、いつも自分でそれなりに一生懸  
命生きてきたつもりでしたが、今年  
のように新型コロナに端を発した予測  
不可能な変化の時代の中で、あの校  
庭の大樹に問われているような気が  
します。どう生きていきますか？  
何が出来ますか？と。



校内のロータリーにある萬苺(ちしゃ)の大樹

日々悩む若者と向き合う仕事をしてながら、また新たな社会のうねりと多少の風向きの変化の中で、時折ただ寄り添うことしか出来ていないかもと、無力感に心が揺れます。校庭のあの大樹に出会えた幸運を持つ私は、経済効率優先の社会で、自立に向けて悩む若者に、それぞれが自分の中にある木を育てていく手伝いをするよう言われていく気がします。自分の木はまだ根が浅いままですが…。10代の頃の自分は進むべき道が見えず、自分の未来を不安がり、ただ怖がっていました。でも川辺では小学

校から高校まで、たくさんの方々に恵まれ、豊かで大きな自然に守られて育ちました。贅沢は出来なくても食べる事には困らず、戦争体験の苦労がない世代の私は、やはりもう少しの間、やるべき仕事をしないとね！と言われていく気がします。まだしばらくは、故郷は自分の心の中にあつて、何時でも好きな時に取り出して再会するものになりそうです。

### コロナ禍と同窓生の絆

昭和四一年卒 寺師 慶志

(鹿児島在住)

米寿のお祝いと高校同窓会の閉幕を宣言した「どっこいしょっ88」なる記念誌をいただいた。川内高校4期生で地元在住の親睦団体「川内四つ葉会」の発行。送ってくれたのは企画から全てを一人でやった編集人の田中貴雄さん。

私の南日本新聞の駆け出し記者生活は川内支社だった。田中さんは毎日新聞川内通信部の先輩記者。以来、年賀状だけの非礼を重ねてしまった。電話でお礼言いながら50年近い空白を少しは取り戻せたか。

記念誌は3年がかりだった。そし

て、ことし4月8日のイベントで閉幕を宣言する段取りだった。しかし、新型コロナウイルスの「集合するな」の一言で中止。

記念誌は郵送になった。「終わつたようで、終わっていないような感じ」と田中さん。

「川内高4期生 バスに乗って浮き浮き 24年目の修学旅行」。なんとなく見覚えのある新聞記事のコピーが記念誌にあった。スクラップ帳をひっくり返してみたら、私が書いた記事に間違いなかった。なんと縁ご縁。

記事内容を紹介したい。

「戦後の混乱で修学旅行どころではなかった川内高校の4期生50人が24年目にして念願の修学旅行に出発、指宿に向かった。当時の高校生も今や42、43歳。働き盛りの男性は厄払いを兼ねた、また女性も多忙な家事から解放されての二泊二日の旅行とあってどの表情も喜色満面。(以下略)」

その同窓会の親睦団体も米寿を節目に閉幕(解散)した。記念誌の巻頭言に「名誉ある終焉を迎えられたことを共に自慢します。宿題はこれからです。元気に百歳を迎えること

です」とあった。

さて、我らが鹿児島同窓会。41年卒のゴルフ親睦団体の目標は80歳なので、会の名称も「80会(はちまる会)」である。味気ない名称だが、分かりやすいのが肝心。

恩師・橋元忠也先生が健在のころは「橋元杯」と称して、年3、4回プレーと飲み会を楽しんだ。恩師亡きあと「80会」に名称変えて継続しているが、直近はやつと2組だった。飲み会は無し。

コロナ禍は収束の兆しが見えない。親密な人間関係を断つ。この困難な時代のなかで、米寿、百歳目指して同窓生の絆を保つためには、格段の努力が求められる。まずは何としても80歳である。



2019年神戈陵のつどい鹿児島同窓会総会  
昭和41卒 内村君・早夫君が何を話しているのかな?

### チームワーク

昭和四五年卒 有 蘭 茂 矢

20年ほど前の記憶で内容を掘り起こしてみた。現在も仕事で現役諸氏に役立つならと寄稿するものである。仕事に限らず、世の中にはチームワークが大事である。少し先達の言を借りて整理する。

左記①②③は、大西洋単独飛行のリンドバーグの父上が言ったらしい。  
④は、古代ローマのストア派の哲学者セネカの言葉で有名である。  
⑤は、とある先輩の声である。

①一人は一人前の仕事をする  
当たり前と言うか説明不要

②二人は半人前の仕事をする  
考えの相違、感覚の相違、方法の相違、主導権争い等で効率低下する。相違点を如何に合致させるか、呼吸を合わすか、コミュニケーション方法が試される。

③三人は何も仕事しない  
相違点、主導権争いを超えて、派閥争いや仕切り合いで、仕事どころでない。下手をすれば、何も仕事し

ないどころか、船が山に登る。

④手は手を洗う

セネカは、「魚心あれば水心」のつもりで言ったらしいが、ここではそうではない。人が手洗いの事を思い描いてほしい。怪我等で片手で手洗いすると不便極まりない。それが両手で行うと、非常にスムーズにいく。これこそがチームワークの神髄と思える。結婚披露宴のスピーチにも受けますよ。

最後に複数人で仕事する上ではさらにリーダーシップが必要となる。リーダーシップの中でもいろいろなる素養が必要で、その中の一つを紹介する。

⑤リーダーは作業してはいかん。仕事しろ。



### 還暦を迎えました

昭和五二年卒 下 澤 孝 子

私は昭和52年3月に川辺高校を卒業して上京しました。

東京同窓会に招待されて数名で出席させて頂いた思い出があります。第1回目だったのでですね。あれから今年で44回目。東京同窓会を学年幹事として先輩や後輩の方々をお迎えする予定でした。残念な事に新型コロナウイルス感染症予防の為に開催は中止となりました。また、東京オリンピックの年でもありましたので開催に向けての賑やかさも楽しめるのではないかと期待していたのですが延期になって残念でなりません。次の同窓会開催で同窓生のお会い出来ることを楽しみに



昭和52年卒 還暦同窓会 (皆様、歴史を刻んだいい顔してですね)

にしています。

昨年私

たち同級生は還暦のお祝いをしました。同窓会で会う人たちが連絡出来る人にお誘



金澤旅行 一兼六園にて

居通り抜けの桜の花見をして、東京駅近くの中華料理店で祝い席を設けました。関東だけでなく富山や兵庫からも参加してもらえて総勢18名の賑やかな祝い席となりました。高校卒業以来久しぶりに会った友達とは美味しい料理をいただきながら、1年の時のクラスの確認や部活など高校生の頃の話に盛り上がりました。とても楽しいそして幸せな時間でした。  
盛り上がるの先には、自由な時間がとれるようになった人たちが富山へ一泊旅行の話になりました。それは11月、関東、関西、九州は福岡鹿児島の人たちに声をかけて富山駅に

7名が集合しました。夜には富山在住のお1人も加わりました。

富山市内観光や名物を食べながら懐かしさで場所柄も気に留めない鹿児島弁のオンパレード。2日目には金沢市まで足を延ばして観光しました。次またどこか泊まりの旅をしたいねと言って帰ってきました。子育てに忙しい頃、親たちに歩けるうちにあちこち旅行して美味しいものを食べてきてと言っていました。私たちが親の歳に近づいてきました。40年以上も故郷を離れて暮らしていますが、やはり生まれ育った川辺は風景も食べ物も忘れられません。友達とは「元氣やった? いっちゃん変わらんね!」の言葉を掛け合えるように、withコロナ、これからも体調管理をしっかり行って充実した毎日を過ごしていきたいと思えます。



富山の旅での宴会  
「ビールが美味しかったです!!」

「故郷の祭り」

川辺二日市

昭和四一年卒 有蘭純一  
(鹿児島在住)

南さつまに春を告げる川辺二日市は、1790年頃の天明年間に始まり220年の歴史を誇る県内3大市の一つで、毎年2月の第一土曜日と日曜日に開催される。川辺町の広瀬橋から川辺高校までの歩行者専用となった1・3キロの商店街の両側に、露店400店がずらりと並び二日間で県内外から10万人の人出で賑わう。

最近では商店街の他、旧川辺中学校跡や川辺公民館広場を利用してファミリーマーケットや仏壇フェスタ、九州骨董市、安土桃山時代風の楽市楽座の開催、バナナのたたき売りや、バルーンアート、ちんどん行列などの大道芸もあり終日楽しめるイベントになっている。

さて私の子供の頃、昭和30年頃の二日市は毎年2月の2日と3日と決まっていた。つまり平日であろうが2日と3日に開催されていた。学校は午前中で終わり午後からは露店回りが楽しみであった。当時は終戦間

もない頃で白衣を着た傷痍軍人が寄付を募ったり、お寺の境内では刀でなかなか傷をつけないガマの油売りや、工場が消失し焼け跡から残ったという万年筆売り等、寅さんの世界であった。

現在の鹿児島銀行川辺支店は当時空き地で、二日市に合わせて芝居小屋や見世物小屋が2週間位開かれて、子供心に大看板を見て興奮したり恐怖を覚えたりしたものであった。

おもちゃ屋をしていた我が家をはじめ本町の商店街では、それぞれの店が雨戸を陳列棚にして朝から商品を並べ、この日の為に親戚が手伝いにきて昼ごはんを食べる時間も忙しかった。当時は県外から露天商が多数訪れ、前日から場所割りの抽選があり、終わると夜は宴会や博打が始まるので、我が家の花札が良く売れた。

その後、高校を卒業してから県外に在住していたので長く二日市との関りも無くなったが、ある時に二日市が2日と3日ではなく毎年2月の第一土日開催に変わったと聞き、人口の減少、それに伴う商店街の衰退、なんとか地方復興をしたい地元の思いを感じ、止むを得ないと思いつ

つも寂しさが胸に残った。

最後に同級生の故大坪憲市君の名調子が二日市を盛りあげ、毎年顔を合わせるのが楽しかった事を追記して置きたい。



川辺の街の通り  
普段は人はほとんど見当たらないが、アメ横状態



人気のバナナのたたき売り  
大きな房を安くゲットしていきます

# 私の作品展

37年卒 蔵前祥子

2020年は、東京オリンピック・パラリンピック開催  
そして母校創立120周年記念行事で、喜び  
に満ち溢れるはずでした。

新型コロナウイルスの世界拡大で、生活は縮小  
され、感染防止の為新しい生活様式が求め  
られています。しかし日常生活はこれから  
も続いています。少しでも前向きに、明る  
く生きていく事が大事だと思います。



「たまには空を見上げてね」

昭和五二年卒 中原信寛

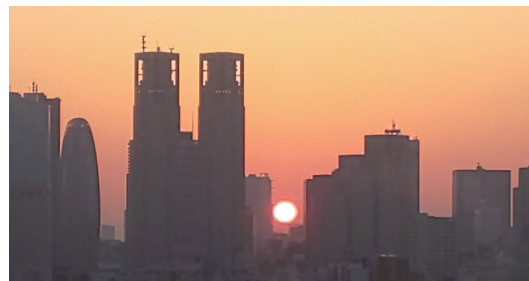
コンクリートに囲まれた空間には  
人工の風と照明に満たされていても  
逆らえない自然の脅威と共存する  
一人一人の生活がそこにあります

そんな街でも朝日が昇り  
雨上がりには虹が出て  
夜景より明るい月が照らす

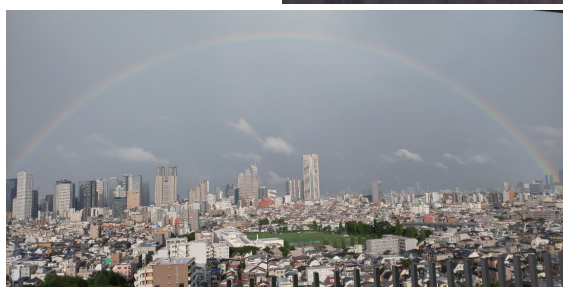
自然に満ちた田舎より  
きれいに見えるのは  
気のせいでしょうか

目の前のことだけに精いっぱい  
時にはうつむくことが多くなり  
空を見上げる余裕のない人々に  
自然は一段と光を放っている

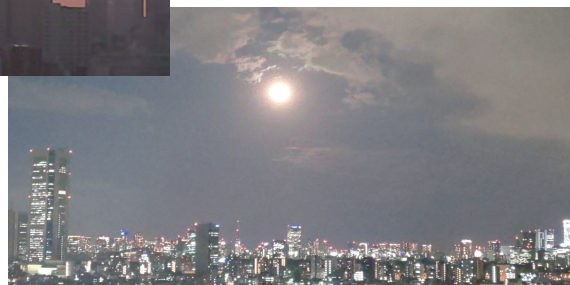
「たまには空を見上げてね」



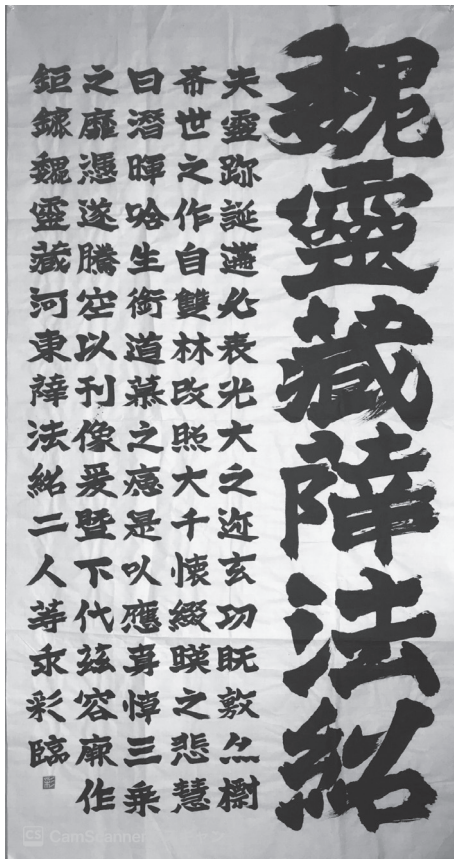
都庁から登る朝日



新宿にかかる虹

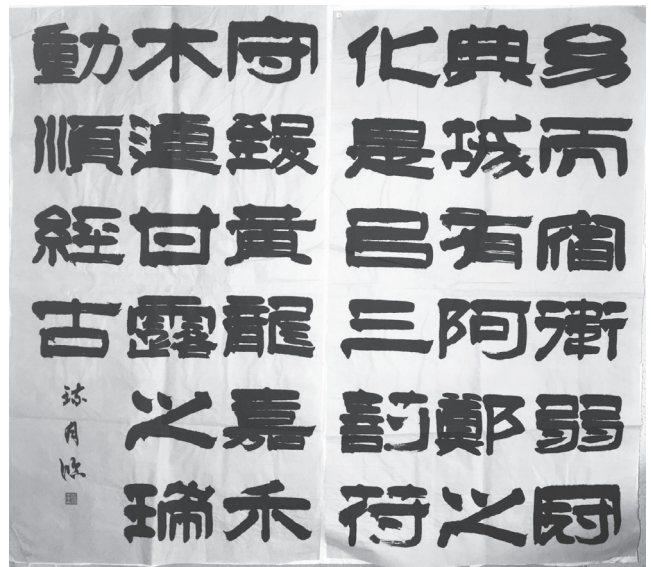


新宿の夜景と月

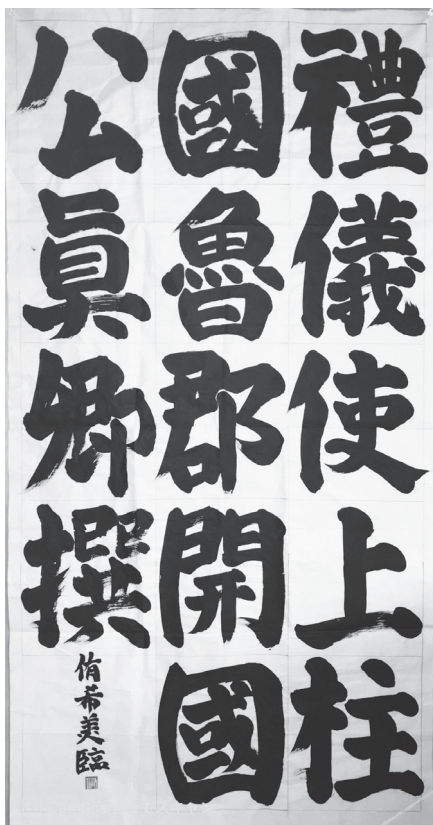


「魏靈藏造像記(きれいどうそつどうき)」

堀之内 彩(2年)

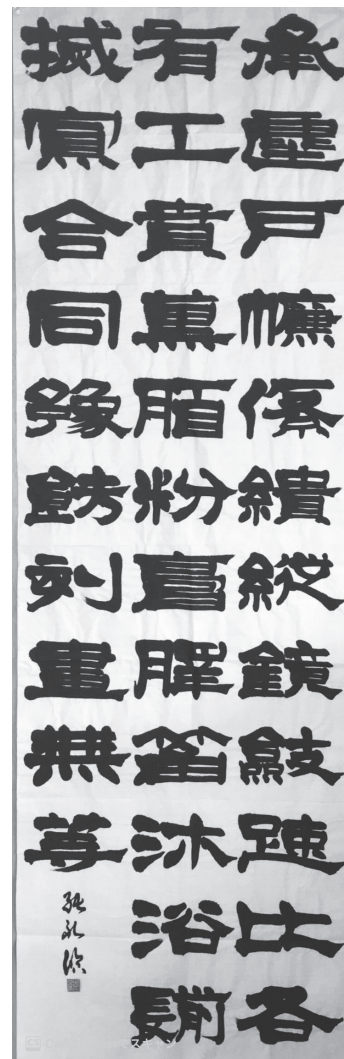


「西狭頌(せいきょうしょう)」  
野沢 琉月(2年)



「顔氏家廟碑(がんしかびょうひ)」

沼田 侑希美(1年)



「木簡(もつかん)」 野沢 純礼(1年)



# 神戈陵 俳壇・歌壇

家郷 かきやう

前橋 竹之 (昭和二五年卒)

- 一. 言霊ことだまとなりて知覧の揚雲雀あげひばり
- 二. 新茶汲かじかむ手にうぶすなの黒茶碗
- 三. 河鹿鳴かしかく宵うつくしき家郷かな
- 四. 老鶯らうあうの声へそばだつ磨崖仏
- 五. 夜振火よぶりびの漁いさる昭和の郷さとの川

大平 政弘 (昭和三四年卒)

- 一. 寒天を切り裂く気合 朝稽古
- 二. 母になりし娘ふたりと年の市
- 三. 水仙やむかし黒船をりし海
- 四. 鉄瓶のびんびん鳴るや寒の入り
- 五. 採寸の末子見守る春隣

南谷 恒英 (昭和三六年卒)

- 一. 幼子の膝乗り出して初手前
- 二. 寒紅梅一人バス待つ杖の人
- 三. 波静か大和の眠る春の海
- 四. コロナ禍や周五郎漬の日長かな
- 五. 戦争の二文字重く八月来

堂園 俊秋 (昭和三八年卒)

- 一. 花冷えや馴染みの蕎麦屋休みなり
- 二. 宵の蝉一途さに戸をそつと閉め
- 三. さわさわと葉ずれの音や秋深し
- 四. 孫帰り二尺の高さに障子貼る
- 五. 山茶花の花びらこぼし鳥発てり

森山 昭利 (昭和四一年卒)

- 一. クマゼミの伴いたるや故郷の夏
- 二. ジリジリと暑さ重ねるアブラゼミ
- 三. 涼風にさもうれし気なカネタタキ
- 四. 風澄みて声も侘びしき法師ゼミ
- 五. 病葉(わくらば)の浮かべる水の黒きこと

有園 茂矢 (昭和四五年卒)

- 一. 怪妖とユリ根の毒で遂に墜つ  
(コメントカットさせて頂きました・編集部)
- 二. 秋来ずに老る(ひねる) コロナや盛んかな
- 三. コスモス(鹿兒島弁で超し申す?)と  
予想しつつも遂に辞め
- 四. 逃げ水や秋も待たずにコロナかな
- 五. 夏休み GOTOなどと寝ぼけおり

# 神戈陵 俳壇・歌壇



「短歌」

橋本 起世子(昭和四一年卒)

一. 朝靄の立ち込める森の静けさに  
誰を呼ぶのか鳴くホトトギス

二. 足下に百日紅の花舞い降りて  
幼き日々の思い出過ぎる

三. 蜘蛛の巣に朝霧やどり玉模様  
光差し込み煌めく雫

四. 山あいの川のせせらぎ風の音  
ひとときの憩い優しく流れる

「俳句」

一. 歳重ね行く春惜しむ我が畢生

二. 陽を浴びて歩く山間春菜摘む

三. 店先に故郷の名の筍飯



利根川の堤からの夕方のシルエット富士



利根の堤の桜並木

利根川を詠む

ペンネーム稔峯(昭和四一年卒)

一. 西の富士東の筑波の中ほどを  
悠久の時を河は流れる

二. 利根堤人の歩みも軽やかに  
桜並木に風そよそよと

三. 炎天の利根の川面に涼しげに  
爆音たててボート駆け抜く

四. 赤とんぼ利根の堤に乱舞する  
夕陽のなかにシルエット富士

五. 寒い朝空澄みきる利根堤  
西の彼方に白富士輝く

(利根川の堤は、私の朝晩の散歩コースです。利根の堤桜並木のマイ桜も植え付けて約16年経過。幹の太さが直径10cm程度の桜が、直径40cm程度まで大きくなり、花も沢山つけるようになりました。)

# 母校だより

## 学校だより

同窓会係 内菌和浩

令和2年は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、日本でも非常事態宣言が出され、本校も3月～5月初旬まで休校ということになりました。学校行事についても、3密を避けるということから、一日遠足、KK戦(加世田高校とのスポーツ交歓会)、文化祭が中止になりました。さらに、体育系の部活動の生徒にとつては、南薩地区大会、インターハイ予選(県大会)、九州大会、インターハイ等が、文化系の部活動の生徒にとつては、吹奏楽コンクールをはじめとした県大会等が軒並み中止になり、3年生にとつては、3年間の成果を發揮する場がなく部活動を引退するということになりました。ただ、3年生の最後の活躍の場を確保するという観点から、一部の競技では、メモリアルマッチと銘打った県大会の代替大会が開催され、本校の3年生もその大会に参加して、部活動に1つの区切りをつ

けることができました。また、休校後に学校が再開した後、休校期間中の授業の遅れを取り戻すため、学校としては、中間考査を中止したり、夏休みの後期補習を授業日にしたりして、授業時間の確保をし、在校生の授業の進度に大きな影響を与えない対策を取りました。

さて、夏季休業中の川辺高校の様子をお知らせいたします。7月下旬には通常の夏季補習を、8月中旬から下旬には、夏季補習ではなく授業日として通常の授業を行いました。放課後には、同窓会のご尽力により建てられた施設(尚学舎)を各学年で活用し、特に、3年生は自分の進路実現に向けて、朝早くから夜遅くまで一生懸命努力していました。現3年生から新しい入試制度になり、大学入試センター試験が大学入学共通テストに、AO入試は総合型選抜に、推薦入試は学校推薦型選抜に代わります。3年生にとつては、新しい入試制度の下で、ぜひ満足のいく成果を出してほしいものです。

また、この期間は学習だけでなく、部活動にも時間をかけられる時期です。ほとんどの部は、2年生を中心にして新チームでの活動をすでに始

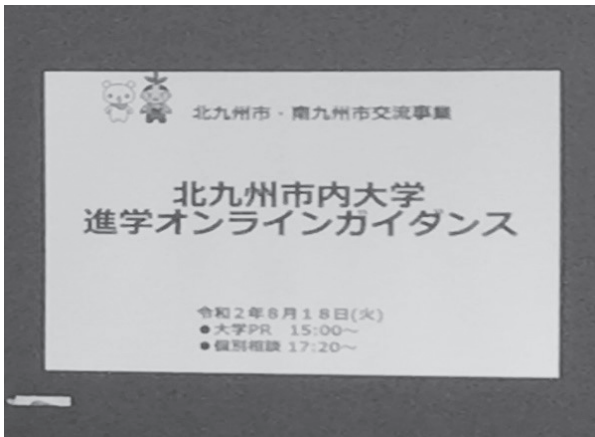
めており、秋の新人戦に向けてしっかり練習を重ねながら、チームとしての基礎力をつけています。練習試合や合同練習をする場合、3密を避ける上で、1か所に集まることのできる生徒の数には制限がありますが、そのような制約がありながらも、練習大会等に参加することで、チーム力の向上を図っています。

例年本校生が参加している、川辺祇園祭でのボランティア活動、川辺みどり園でのワークキャンプ、高校生イングリッシュトレイニングキャンプ、夏トライグレイドアップゼミ、海外研修等が今年には中止になりました。その代わりに、多くの生徒は外部検定試験(英語検定、漢字検定、数学検定)を受験して、自分の進路実現につながる材料作りに取り組んでいます。また、今年には新型コロナウイルス感染症防止対策のため、大学等のオープンキャンパスなどがweb上で行われており、生徒は自分のスマートフォン等で参加しております。百二十周年記念事業で導入したタブレットを使って、自分の興味関心のある先生方の講義の動画を視聴する生徒もおり、自分の進路の方向性をより明確にすることができてい

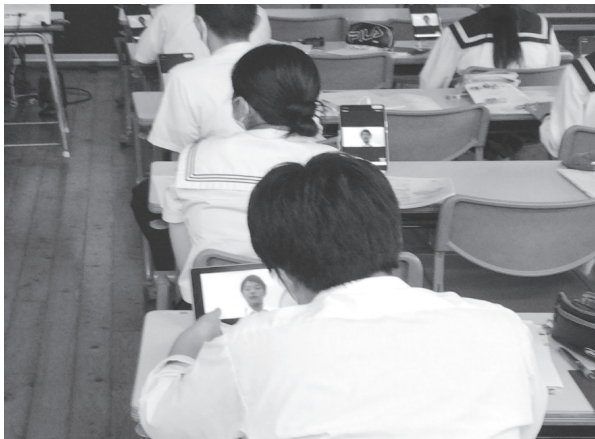
ます。3年生の中にはタブレットに入っているzoomのアプリを利用して、尚学舎で北九州市内大学進学オンラインガイダンスに参加した生徒もいました。zoomによって、生徒は尚学舎にいながら、大学の説明をされる担当者とweb上で直接質疑応答をすることができ、貴重な体験をすることができたようです。

このように、生徒は自分の将来を見据え、さまざまなことに真剣に取り組んでおります。今後とも母校・後輩へのご支援をよろしく願います。





北九州市内大学進学オンラインガイダンスの様子



（お知らせ）  
 今年（令和2年）11月21日に実施予定にしておりました創立120周年記念式典等につきましては、すでにご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、来年（令和3年）11月20日に延期することになりました。なお、詳細につきましては決定次第お知らせいたします。  
 ご出席を検討いただいていた皆様には、誠に申し訳ございませんでした。改めて記念式典のご案内を申し上げますので、大変恐縮ではございますが、その際はご出席いただければ幸いです。



書道部が作成した作品パネル



化粧直しをした尚学舎



PTA 奉仕作業で、草が除去され、きれいになった神戈陵



懸垂幕の貼ってある校舎の外壁

# 森田建設(株)

本部同窓会 森田 剛(S43卒)  
会 長

川辺町上山田4330  
TEL.0993-57-3321  
FAX.0993-57-3323



代表取締役 新谷 昭彦 (S59年卒)  
〒897-0213  
鹿児島県南九州市川辺町小野1184  
TEL 0993-56-0321  
FAX 0993-56-2173

# 関東知覧会

今年の総会は延期となりました。  
次回の開催時は親戚・知人の  
皆さんをお誘いください。

古い町並みに心やすらぐ町  
平和の尊さを語りつぐ町

会長 前原 東二

川辺高校出身者 役員紹介

大平 政弘(S34)

緒方むつ子(S41)

井尻 啓子(S41)

三宅 保弘(S54)

瀬戸口欣宏(S55)

連絡先 136-0073 江東区北砂1-4-16-603  
事務局 副会長・幹事長  
尾曲 正孝 090-8854-3263

# 関東さつま川辺会

第30回総会(記念大会)は、  
来年早々に案内状でお知らせす  
る予定です。

会長 川野 博一(昭和37年卒)  
副会長 大坪 剛(昭和32年卒)  
副会長 東 昭雄(兼任)  
副会長 吉留 浩一(兼任)  
会計監査 野間 善治  
会計監査 大平 キヨ子(昭和37年卒)  
幹事長 東 昭雄  
副幹事長 本田 和幸(昭和50年卒)  
副幹事長 草原 陸雄  
副幹事長 内村 哲也(昭和50年卒)  
事務局 田中 勝之(昭和56年卒)  
事務局 有村 公美子(平成6年卒)  
(〇年卒)は川辺高校卒業年

連絡先 〒181-0005 三鷹市中原3-8-30  
事務局長 吉留 浩一(0422-26-7065)

# 南谷綜合法律事務所

弁護士 南谷 知成(昭和36年卒)  
弁護士 南谷 敦子(長女)  
弁護士 南谷 博子(三女)  
パラリーガル 西 真由子(平成17年卒)

# 南谷朝子公認会計士事務所

公認会計士 南谷 朝子(二女)  
〒810-0041  
福岡県福岡市中央区大名1丁目8-10  
福岡安藤ハザマビル 5F  
TEL : 092-724-1113  
<http://minamitani-law.jp/>

みなみにひろたか

# 南谷洋至法律事務所

弁護士 南谷 洋至  
(昭和49年卒)  
金峰町白川・阿多中出身

世界一の人生応援団長を目指しています。  
いつのときも、神戈陵魂が、心の支えです。

〒810-0041 福岡市中央区大名一丁目8番12号  
第二西部ビル3階・南谷洋至法律事務所  
TEL 092-736-1531 FAX 092-736-1533  
(川辺高校福岡同窓会事務局)

ENEOS株式会社特約店  
三井住友海上火災保険株式会社代理店  
東京海上日動火災保険株式会社代理店

# 株式会社 前野石油 株式会社 前野設備

代表取締役会長 前野 政美  
代表取締役社長 前野 耕作

■石油事業部 ■ガス事業部  
■車販・太陽光事業部  
■住宅関連事業部 ■損害総合保険事業部  
■車検事業部 車検・板金センター  
(国土交通省運輸局指定工場 指定番号 鹿-885)  
本社 〒897-0211 鹿児島県南九州市川辺町両添1026  
TEL0993-56-1336(代) FAX0993-56-3983

# 昭和38年卒の皆さん

後期高齢者の  
仲間入りを記念して、  
来年の総会・懇親会  
(令和3年6月5日)  
に皆で集まりましょう。  
昭和38年卒有志

# 皆様的一段のご健勝を お祈り申し上げます

前会長  
小原 東洋明  
(昭和38年卒)

# 会員の皆様のご健勝を お祈り申し上げます。

元会長(昭34年)大平政弘  
〒247-0025 横浜市栄区上之町 47-16  
電話 : 045-891-0197

### ミネ・アニマル ヘルス

獣医師 峯 苦 稔 三  
(41年卒)

家畜の病気を予防し、安心・安全な畜産物の生産に取り組んでいます。

〒300-1622  
茨城県利根町布川454-180  
電話：090-2440-7109

### S41年卒のよかおごじよ よか二才さん達へ

令和3年3月27日(土)に恒例の女子会・よかにせ会を谷中七福神めぐりとランチを兼ねて開催します。

みんな、おじゃったもんせ!!

(連絡先) 橋本起世子

### シモ動物病院

院長 霜 出 幸 七  
(41年卒)

愛犬・愛猫の病気の予防治療に、ご利用ください。

〒891-0113  
鹿児島市東谷山3-36-11  
電話 099-267-5959

## 知的創造

げんぜんこんこん  
源泉混濁として、  
昼夜を舍かず。  
科に溢らして  
面る後に進み、  
四海に放る。  
(五十一年 離世下より)

小社は学校の教材や書籍、チラシなど印刷物全般を専門に、千代田区で創業以来、本作りの専門会社です。自社で入力から製本まで一括で出来るからこそ、安価でご提供させて頂いております。

企画編集から製本まで 自費出版大歓迎!! カラー名刺・絵ハガキ・封筒・ポスター・横断幕 小部数でも安価でできます ご相談下さい

Eishin 株式会社 盈進社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-2 三信ビル  
TEL 03-3262-3471代 FAX 03-5210-7226  
Eメール：info@eishinsya.co.jp

### 相続に関するご相談!

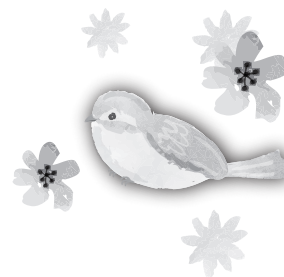
・親子、兄弟姉妹で  
円満相続

ライフプランナー  
ファイナンシャル・プランナー(日本FP協会会員)

内村 哲也

(昭和50年卒)

東京都品川区大崎 1-11-1  
グートシティ大崎ウエストタワー  
ブルデンシャル生命保険株式会社  
首都圏第1支社  
TEL: 03-6675-9837  
携帯: 090-4962-1820



## 昭和40年卒業の みなさんへ

### 今が青春ですよ!!

### 残りの人生の出発点!!

### みんな集まって、 青春を語ろう!!

#### 第44回総会懇親会

2021年6月5日(土)

12:00 ~ 15:00

市ヶ谷駅近隣会場(予定)にて



第41回総会懇親会より

[昭和40年卒有志]

### 「川辺高校東京同窓会存亡の危機!!」

過去5年間平成年度卒業生の出席が非常に少ない、これでは途々に会がしぼんでしまうと思います。よって、平成年度卒業生との交流を行ない、少しでも会員を増やしこの同窓会がすたれるのをふせぐ為に今から準備して行きましょう。

昭和45年卒有志名付けて「アクティ45」



昭和45年卒

# われら神戈陵同窓生

「ここ10年間の総会・懇親会の写真から  
皆様の笑顔を集めました」  
田中勝之 (昭和56年卒)



昭和18~22,25年卒 (平成24年撮影)



昭和20,23年卒 (平成28年撮影)



昭和25年卒 (平成23年撮影)



昭和27年卒 (平成27年撮影)



昭和28年卒 (平成28年撮影)



昭和29-30年卒 (平成24年撮影)



昭和30年卒 (平成28年撮影)



昭和31-32年卒 (平成22年撮影)

# われら神戈陵同窓生



昭和32年卒 (平成23年撮影)



昭和33年卒 (平成27年撮影)



昭和34年卒 (平成26年撮影)



昭和35年卒 (平成30年撮影)



昭和36年卒 (平成25年撮影)



昭和37年卒 (平成27年撮影)



昭和38年卒 (平成29年撮影)



昭和40年卒 (平成27年撮影)

# われら神戈陵同窓生



昭和41年卒 (平成27年撮影)



昭和42年卒 (平成22年撮影)



昭和43年卒 (平成23年撮影)



昭和44年卒 (平成24年撮影)



昭和45年卒 (平成27年撮影)



昭和46年卒 (平成26年撮影)



昭和47年卒 (平成27年撮影)



昭和48年卒 (平成28年撮影)

# われら神戈陵同窓生



昭和49年卒 (平成29年撮影)



昭和50年卒 (平成30年撮影)



昭和51年卒 (平成23年撮影)



昭和52年卒 (平成22年撮影)



昭和53-56年卒 (平成30年撮影)



昭和54年卒 (平成27年撮影)



昭和57-平成年度卒 (平成29年撮影)



平成年度卒 (平成30年撮影)

# 事務局からのお知らせ

## 本年度の総会中止

5月23日に予定されていた同窓会総会が中止となりました。本来であれば、その総会の中で会務報告(別紙参照)、会計報告(別紙参照)を行いますが、今年はその報告をいたすことができません。しかしながら毎期ごとに決算報告をすべきとの観点から、厳正な監査を踏まえ6月20日の役員会にて内容を確認した上で了承されましたことをご報告いたします。

## 年会費について

東京同窓会は会員の皆様から納入いただいた会費で運営されています。いつも納入ありがとうございます。

同窓会の参加者の皆様には会の参加費と同時に年会費もいただいておりますが今年と同窓会が開催されなかつたために皆様からの会費の納入の減少

## 第45回総会・懇親会のご案内

令和3年度の総会懇親会をご案内します。

但し、新型コロナウイルスの感染・流行の状況次第では、会場その他の内容の変更または開催の中止もあり得ることを予めご承知ください。

(1) **開催日**：2021年6月5日(土)

(2) **時 間**：午後12時～15時

(3) **場 所**：市ヶ谷駅近隣の会場(仮予約)

2年ぶりの開催となりますので、多くの会員の皆様にご参加下さるようお願いいたします。

昭和52年卒がメインの担当年度幹事、42年卒と62年卒の皆さんは補助として総会・懇親会の円滑な運営にご協力お願いいたします。

なお、開催する場合には最終案内を令和3年2月頃に発送する予定です。

## 今こそ繋がりを大事に

今年は、コロナ禍で様々な困難に多くの方が直面しています。どのように日常を過ごせばいいのか。こういう時は遠方の旅行はできないけれど近場のいいところを再発見できるいい機会かもしれません。またこのような状況で人とのコミュニケーション

が心配されます。皆様、どうぞ、会費の納入にご協力何卒よろしくお願ひ申しあげます。

シヨンを取りづらくなっています。電話、手紙、そして最近はりモートお茶会・飲み会と称して画面越しに話ができるものも出てきています。直接会いにくいご時世ですので、こういう時こそ、友人、同級生、先輩後輩を思い出し、そして連絡を取ってみたりするのもいいかもしれませんね。来年、開催して多くの皆様の笑顔と再会できることを祈念してい

ます。高校を卒業して地元からはる関東に進学や就職できている若人は有り余る好奇心と体力を持って余しているかもしれませんが、制約も多いかと思います。どうか、そんな中でも貴重な経験ができることを心より応援したいと思います。こういう時こそ繋がりを大切にしたいですね。

## ◇ 令和元年度 川辺高等学校東京同窓会 会務報告 ◇

令和元年 5月11日	会計監査	於：薩摩の里
5月11日	役員会(総会1か月前の打合わせ)	於：薩摩の里
5月13日	リマインドコール実施	役員
6月 1日	役員会(総会1週間前の打合わせ)	於：薩摩の里
6月 7日	本部同窓会・母校との交流会	於：新宿ワシントンホテル
6月 8日	第43回総会・懇親会	於：新宿ワシントンホテル
6月22日	薩南工業高校同窓会関東支部総会	峯苔副会長
7月13日	役員会(役割分担、総会検証)	於：薩摩の里
8月15日	「神戈陵第43号」原稿要請状発送	役員
9月14日	「神戈陵第43号」編集会議	於：盈進社
10月12日	「神戈陵第43号」校正作業	於：盈進社
10月26日	秋季評議員会	於：東京しごとセンター
	「神戈陵第43号」発送作業	於：東京しごとセンター
12月 4日	母校修学旅行生への神戈陵塾	於：日本青年会ホテル
12月 8日	関東知覧会	橋本副会長
令和2年 1月18日	役員会	於：薩摩の里
2月29日	臨時役員会	於：北海道飯店橋駅前店
3月 7日	春季評議員会	中止
3月15日	関東さつま川辺会	中止



◆ホームページについて  
 東京同窓会開設しているホームページがありま  
 す。総会の時の写真を  
 アップしています。  
 また、そのほか、高校  
 のホームページなどあり  
 ますのでご案内いたしま  
 す。  
 是非、覗いてみてくだ  
 さい。

川辺高校東京同窓会ホームページ

<http://kawanabe-hs-tokyo.com/>



フェースブック：ページ名

「川辺高校 東京同窓会FBコミュニティ」



川辺高校ホームページ：

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kawanabe/>

川辺高校公式ブログ：

<http://kawanabe.edu.pref.kagoshima.jp/>



令和元年度 川辺高等学校東京同窓会 会計報告

自：平成 31 年 4 月 1 日  
至：令和 2 年 3 月 31 日

収入の部	金額	支出の部	金額
総会会費収入	1,199,000	総会関連費	1,646,676
年会費収入	471,000	会報誌関連費	500,970
総会出席者 158,000		会議費(会場費等)	50,273
総会欠席者 313,000		通信関連費	9,062
会報誌広告収入	270,000	他会出席	20,000
寄付金(御祝儀含)	94,000	事務用品費	9,159
雑収入	12,000	雑費	42,967
総会資料代(欠席者)	19,000	振込料金	52,711
郵便貯金利息	4	翌期繰越金	
前期繰越金	889,416	郵便振替	327,836
		ゆうちょ	166,867
		現金	127,899
合計	2,954,420	合計	2,954,420

第43回東京同窓会総会 出席者総数 162 名

内訳(会員男性 84 名、会員女性 68 名、学生 0 名、会員外 1 名、来賓者 9 名)

上記の件、監査の結果相違ありません。

令和 2 年 5 月 30 日

会計監事

園師 日 格

会計監事

有馬 洋二



編集後記

事務局長 中原信寛(昭和五二年卒)

不自由な日々を如何お過ごしですか  
 いくつかの楽しみが無くなっても  
 少しでも楽しみを見つけ

会えないなら会いたい人を教え  
 長雨と猛暑なら心と体を休め

いつか出かけられる様になったら  
 行きたい街や公園や山を思い起こし

故郷に友に会えるその日まで  
 変わりなく毎日を過ごしたい

来年の同窓会は6月5日(土)

市ヶ谷駅近傍で準備を進めています

我々が故郷を旅立ったあの日から  
 毎日が新しい日常との出会いで  
 今度は今まで以上に大変だけど  
 明日は必ず良くなると思っていて

編集者

森山、菊永、川原、松永、橋本、  
 岡本、椎原、山本、蔵元、内村、  
 中原、田中、有村、峯吉





### 神戈陵のスタンド

体育祭の赤・白組の応援合戦を思い出す